

パネル検査を共同開発

造血器腫瘍の早期発見へ

がん研究セ、大塚製薬

国立がん研究センターと大塚製薬は26日、造血器腫瘍を対象とした遺伝子パネル検査を共同開発したと発表した。造血器腫瘍に関する454遺伝子を網羅的に解析し、癌の早期発見につなげる。今後、保険適用に向けて臨床試験を実施予定で、遺伝子パネル検査の有用性が検証された場合、大塚製薬が申請を行う。

その後同センターが100名に限定して臨床試験を行い、有用性を検証する。試験終了段階で、大塚製薬が実用化に向けた申請を行う予定。

腫瘍溶解性ウイルス療法獲得

キッセイ薬品 米ベンチャーが開発中

キッセイ薬品は、米ベンチャー「CG Oncology」が開発中の腫瘍溶解性ウイルス療法「CGO-100」の日本を含むアジア20カ国の開発権を、約1億1000万ドル（約11億7000万円）で買収した。CGO-100は、網膜芽細胞腫(Rb)や神経鞘腫(Schwannoma)などの神経系腫瘍に対する選択的治療薬として開発されている。CGO-100は、網膜芽細胞腫(Rb)や神経鞘腫(Schwannoma)などの神経系腫瘍に対する選択的治療薬として開発されている。



「ネビック」国内承認取得
眼科領域初の再生医療品

富士フイルムと「ネビック」は、患者自身の角膜細胞を採取してシート状に培養したものであり、同じ「ネビック」の開発を進め、製品を移植することで角膜上皮を再建させる。

「アクテムラ」で第Ⅲ相試験
ロシュ 新型コロナウイルス患者対象に

ロシュは、米FDAと連携し、新型コロナウイルス感染症に対する抗体医薬品「アクテムラ」の第Ⅲ相試験を開始する。

吉川氏が代表取締役

日医工 田村社長と2人体制

日医工は、取締役を代表取締役社長吉川隆弘氏と取締役副社長田村浩一氏に任じた。

eソースDDCに本腰

モニター訪問の業務効率化



竹田氏

長年の竹田氏は、国内CROの中で、われわれは間違いなくeソースDDCの活用実績がある」と自信を示す。eソースDDCは、効率化や費用削減が見込まれる新しいモニターリング手法として注目されているが、国内では医療関係者との差別化を図る。竹田氏は「これまでeソースDDCの標準化やリソースを確保し、マーケティング(RBM)を業界に先駆けて手

がけてきた。次はeソースDDCで新たな臨床試験のあり方を提言したい」と意欲を示す。具体的実績として、後述の生物学的同等性試験(BE試験)を5社で活用し、2試験で承認取得に至った。その他、第Ⅱ相試験や抗がん剤の第Ⅱa相試験で、eソースDDCを活用した複数試験が進行中である。また、阪大微生物病研究会、臨床試験実施支援機関(SMO)のノイエフと共同で実施しているワクソンの多施設第Ⅲ相

試験では、eソースDDCの活用により、業務の効率化が実現できている」という。竹田氏は「製薬企業やCROだけでなく、SMOや医療機関と協力体制を築き、eソースによる効率化を進めていきたい」と述べ、様々な機関との連携を模索していく考えを示す。

竹田氏は「これまでの経験から、ステークホルダー全体の最適化を念頭にどういった試験であったとしても、eソースDDCを最大限に活用できるかを検討し、顧客に最適なソリューションを提案したい」と話している。

下の地位強化を図る。岩本氏は、2016年にアズノジャパンの社長に就任。これまでアステラス製薬で東南アジア事業本部長、テバ製薬(現・武田パファーマ)で営業・マーケティング本部本部長など様々な要職を歴任しており、製薬業界の戦略・販売、マーケティング分野で36年以上の経験を持つ。

A2 Healthcare × eSource DDC

The Life First Company

エイソーヘルスケア株式会社

〒112-0002 東京都文京区小石川1-4-1
住友不動産後楽園ビル TEL:03-3830-1122 (代表)

私たちは伊藤忠グループの一員です。